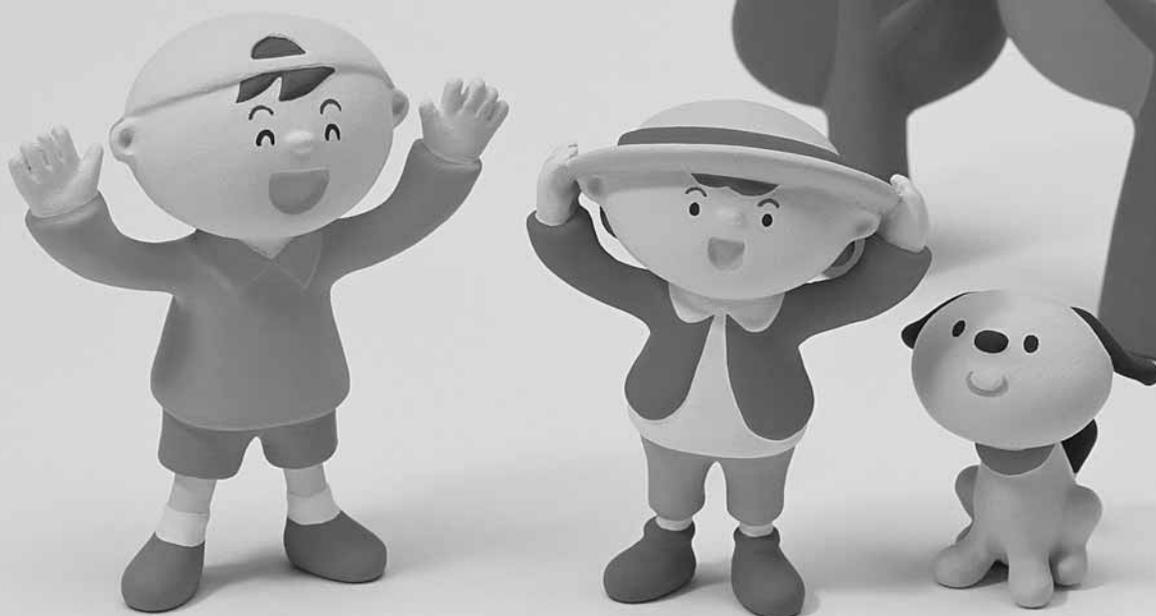


希望は心の太陽  
笑顔をかかげましょう



●特別モーニングセミナーが開催されました

宮城県

●沿岸単会へ救援物資をお届けしました

宮城県

●倫理経営講演会の開催予告

宮城県



## 宮城県倫理法人会 活動理念

- 一、倫理経営を通して活力ある企業を創る
- 一、倫理運動を通して明るく豊かな地域社会を創る
- 一、倫理活動を通して未来を担う新進気鋭の人材を創出する

### 会長代行あいさつ

## 希望は心の太陽である

宮城県倫理法人会 会長代行 田中 裕人  
(株式会社菓匠三全 代表取締役社長)



国道を走っていると、タンクローリーが列をなして北上していきます。

信号のつかない交差点では警察官が交通整理をしています。空港近くで八王子ナンバーの警視庁車両を見かけました。広く全国からお力添えを頂き、復旧へと向かっていると実感します。倫理本部からは丸山理事長自らがすぐに来仙。被災した各地を見舞って石川会長のご子息をはじめ皆さまを勇気づけ、元気を下さいました。物心ともにお力添え頂いた事に、改めて御礼を申し上げます。また、全国の倫友の皆様からもたくさんの支援物資を頂きました。励ましのお言葉、そして多大なるご協力をありがとうございました。皆様の温かなお気持ちは、明るいあかるい希望の光となりました。

快適で便利な日常が一瞬にして崩壊しそして復旧していく様は、まるで30~40年前に立ち戻ったようですが、今こそがスタートラインに立つ時です。

決して全員が同じスタートではありません。ある人は+3歩から、ある人は-2歩からのスタートです。しかし、「まず、スタートラインに立つこと」が大切なのです。そしてこの時点で会社に対してどれだけ想いが込められるか。これが会社のこれからを決めるといっても過言ではありません。より深い地点からスタートすることが、より大きな未来へ繋がっていくことでしょう。

「自分に起きる問題は、全て自分で解決出来る問題だ」といわれます。目前にあるこの問題は、解決し難いと思っても、間違いなく解決へと導かれるのです。立ち止まらず、声を上げて、知恵や方法を学んでいきましょう。倫理法人会には多種多様な方が所属しています。どうしたらいいか、その道の知恵を学ぶことが大切なのです。

17カ条に「希望は心の太陽である」とあります。

**希望を持とう！必ず出来る。打つ手は無限に有る。**

明るい希望を胸に、薄紙を重ねるように一つ一つしっかりと、基盤を築いて参りましょう。全国からの支援に感謝し、地域で互いに肩を寄せ合い、気持ちを合わせて未来を作っていきましょう。今より悪くは成りません。必ず良かったなと言えるときは来るのです。

1,000年に一度の災害にあった事、それは運命なのかもしれません。

普通の生活が、大切に素晴らしいものを改めて感じます。

停電の中、ロウソクの灯で家族の絆を確かめた方も多かったことでしょう。

今のこの気持ちを忘れず、明るい未来を信じていきましょう。

桜まつり・青葉まつりなどは中止となりましたが、2カ月後には「七夕まつり」が開催されます。ご支援頂いた皆様を、温かくお迎え出来るよう、力強く復旧して参りましょう。

本当に感謝いたします。有難うございました。

# 震災後の県主催特別モーニングセミナーが 開催されました

日 時 : 平成23年4月6日(水) 6:30~8:00  
会 場 : KKRホテル仙台 2F 蔵王の間

3月11日に東日本大震災に見舞われ、宮城県の倫理活動が全て停止している中、丸山敏秋理事長による東北三県の被災地の見舞い巡回を機に、県主催による『特別モーニングセミナー』が開催されました。

震災後初のモーニングセミナーには、待ちわびた県内会員の皆様総勢140名余のご出席のもとに行われました。

始めに、参加者全員による大津波により亡くなられた石川会長はじめ会員の皆様のご冥福をお祈りする黙祷が捧げられました。

松浦月子 MS 副委員長の進行により、何時もどおり“夢限りなく”の斉唱に始まり、保坂幹事長の“朝の挨拶”、そして“万人幸福の栞輪読”では 第14条“希望は心の太陽である”輪読を行い、久々のモーニングセミナーということもあり活気あるものになりました。

続いて、田中裕人会長代行による会長あいさつでは、東日本を襲った未曾有の大地震は大津波を引き起こして多くの命を奪い、甚大な被害を残したが、この試練を体験した私たちが為すべきことは一人ひとりが明確な夢と希望をもち、次世代のために安定した土台を作ることであり、そして、この震災を後世に語り伝えていくことが大切。また、“人は一人では生きられない”皆で力を携え知恵を出し合い、復興に向かって心をつ一つにして明るい未来を信じて前進して参りましょう！と檄が飛ばされました。

次に、この度の大震災で大津波により名取市閑上の自宅、店舗の全てを流失という被災を受けた仙南倫理法人会の佐藤智明会長から、地震当日の大津波から間一髪で逃れた生死を分けた右ハンドルの生々しい体験談が語られました。倫理を学んできたから今の自分がある、と言い切り、会社の再建と地域の復興を信じて奔走している毎日、との力強い近況報告がありました。

続いて、講話者である丸山敏秋理事長が登壇、冒頭、この度の大震災に伴う「見舞金目録」が田中会長代行へ授与されるセレモニーが行われました。

今回、ブラジルサンパウロの小中学校から倫理研究所に届いた“千羽鶴”が会場の正面に飾られましたが、理事長による被災地見舞い巡回に持参しているとのこと、また、校長からのメッセージも届いており紹介されました。

理事長の講話に入る前に、同行されている生涯局の教育企画部、和田毅部長（元北海道・東北方面長）から、被災地の見舞い巡回で教えられたこととして、避難所での殴りあいの喧嘩を目の当たりにして、“こういう極限の時に人間の性根が出てくるものだ”と思い知った、ことなどが披露されました。

いよいよ、丸山理事長の講話に入り、最初に、被災地を見舞い巡回したときに現場を見て言葉を失ったこと、そして、この大震災で日本が真っ二つ（東日本の震災被害実情、西日本の変わらぬ生活）になったことを感じた、ということでした。本題に入り、一つ目の話として“人間は何と忘れる動物であろうか”ということである。日本は南北に長く、東西に幅があるため立地状況から、穏やかな一面と険しい一面を備え持っているが、険しい一面は地震と台風が牙を剥くことである。特に地震はいつ来るか判ら

ない。

「災害は忘れた頃にやってくる」(寺田寅彦)というが、来年の今頃は忘れているのでしょうか！だから、忘れないためにメモリアルなことをやるべきである。そして我々は語りべになるべきです。現代は、文明化都市化のため、昔に比し災害が大きくなる。忘れてはならないのは2週間分の食料と水を備えておくべきだ。

今回の大震災は、安全と言われてきた原発事故を引き起こしたが、日本は原発に大きく頼っていた(電力供給の1/3が原発)ことを強く思い知らされた。日本のエネルギーはどうするのかといえば、新しいエネルギーを作るか、またはライフスタイルを変えるかのどちらかなのだが、日本はどちらも問うことはしていない。大きな選択であり問いを突きつけられた大震災である。エネルギーを見直すことで世界、文明は大きく変わるという時に差し掛かっていることを認識すべきである。

続いて、二つ目の話は、“人の死をどう受け止めるか”ということである。今回の大震災で何万の方が津波で死亡しています。我々はこの方々にどういう至誠を向けたらいいのか、またどう受け止めるのか、である。実は、これには答えはない。死についての問いに正解はなく、自分でそれぞれに答えを見つけるものであり、共通の答えはないのである。何故なら、人間は判らないだらけの動物なのだからである。(何故生まれてきたのかが判らない)ここで、アメリカのある生命誕生の実話を紹介します。生まれながらにして障害を持ち生まれてくる人がいます。ある夫婦は13年目にして待望の子供を授かりましたが、奇形の子でした。母親は愕然としたものの、その後気を取り直し“この子をどの夫婦に授けようかと神が探していて、なかなか見つからず、やっと私たちに授けたのだ”といったそうです。ここに倫理がある。仕方がないと受けとるか、前向きに受けとるか、なのである。

次に、死の話を紹介します。精神科医であり作家である神谷恵美子さんが、ハンセン病院(ライ病患者の専門病院)に勤務した時に読んだ詩があります。『運命とすれすれに生きているあなたよ！逃れようとて「鉄の手」に朝も昼も夜も放さぬ。その放さず10年20年と生きてきたあなたよ。何故私たちでなくあなたが？あなたは代わって下さったのだ。許して下さいライの人よ。』これは正解ではない。神谷先生の答えなのである。

この度の津波で死亡した方々も私たちの代わりに代わって下さったのだ、と答えを出したならば、別の問いが出てくる。これからの人生の中で、その死を無駄にしないために日本は変わっていかなければならない。天変地異は天からのメッセージ、変われというメッセージ、このままではいけないというメッセージなのである。変わらなければ亡くなった方々に申し訳がない！

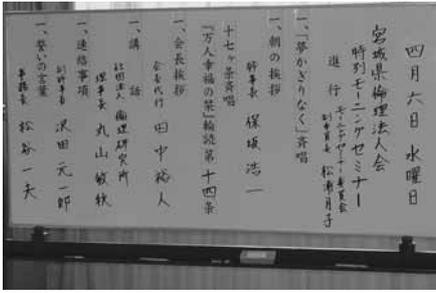
最後に、3月16日に天皇陛下が出されたメッセージについてである。この震災に関するお言葉の中で、普通はお見舞いでは使わない凄いお言葉が述べられています。

『～ この大災害を生き抜き、被災者としての自らを励ましつつ、これからの日々を生きようとしている人々の“雄々(おお)しさ”(たくましさ)に深く胸を打たれています。』日本は国難のときに皇室の存在が大事になってくる、という歴史を持っている。このメッセージにマスコミは一部カットしたが、制度や政治の問題ではなく、民族の中心である天皇のお言葉であり、メッセージをカットすることは良くないのである。

以上、定刻にモーニングセミナーが終了し、その後は登米市若鯨の炊き出しカレーの朝食会、コーヒータイムのため会場をレストランに移し、丸山敏秋理事長ほか本部の皆様を囲んでの交流会が行われ、盛会に終了となりました。

ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

宮城県倫理法人会 モーニングセミナー委員会



# 救援物資の対応

3月11日の大震災の後、宮城県倫理法人会として被災した皆様のために何ができるかを考え救援物資を募ることとなりました。震災速報により会員の皆様へ呼びかけたところ、多くの方々から物資の提供をいただくこととなりました。そのほかにも他県の倫友の皆様から多くの物資をいただくことになりましたこと、紙面をお借りして深く御礼申し上げます。

救援物資は沢田副幹事長の会社を集められトラックにより被災地に届けられました。

第一回目は沢田副幹事長、荒木方面長、川又副方面長のメンバーにより、名取市、石巻市、南三陸町に初めて救援物資が届けられました。第二回目は私と沢田副幹事長で南三陸町。第三回目は私と沢田副幹事長で南三陸町、気仙沼市へ物資を届けさせていただきました。

被災地に行き現場の生の声を聞くことで、被災を受けていない人間の意識とは違いがあるということも学ばせていただきますとともに、被災地では、必要なものが時間とともに変わってくるということも痛感しました。

今後は被災地と連絡を取りながら必要なものを迅速に提供していこうと考えています。

宮城県倫理法人会 幹事長 保坂浩一





## 『倫理経営講演会』が再開されます！

《登米市倫理経営講演会》 ※登米市設立15周年記念式典が併催されます。

【日時】 平成23年6月3日（金）  
＜15周年記念式典＞ 午後6時～6時30分  
＜講演会＞ 午後6時30分～7時30分  
＜15周年祝賀会＞ 午後7時30分～9時

【場所】 ホテルニューグランヴィア  
登米市迫町佐沼字中江4丁目12-12 TEL 0220-22-8711

【講師】 社団法人倫理研究所 法人アドバイザー 大橋俊作様  
テーマ「創生の経営道」

【会費】 ＜講演会＞ 2,000円/お一人様  
＜15周年祝賀会＞ 3,000円/お一人様

《仙台若林倫理経営講演会》 ※翌朝モーニングセミナーが開催されます。

【日時】 平成23年6月7日（火）  
＜講演会＞ 午後6時～8時  
＜懇親会＞ 午後8時20分～9時30分

【場所】 ＜講演会＞ ホテルレオパレス仙台  
仙台市宮城野区榴岡4丁目6-28 TEL 022-706-0001  
＜懇親会＞ 焼肉レストランひがしやま長町駅前店（立食形式）  
仙台市太白区長町5丁目13-27 TEL 022-746-4129

【講師】 社団法人倫理研究所 常任理事 普及本部長 中西 浩様  
テーマ「トップを支える家庭力」  
＜事業体験報告者＞ 静岡県沼津北倫理法人会 副専任幹事 大嶽龍太郎様  
テーマ「思いの力」 ～事業の岐路に立った時、倫理がどう役立ったか～

【会費】 ＜講演会＞ 2,000円/お一人様  
＜懇親会＞ 3,000円/お一人様

《大崎倫理経営講演会》 ※翌朝モーニングセミナーが開催されます。

【日時】 平成23年6月13日（月）  
＜講演会＞ 午後6時30分～8時30分  
＜懇親会＞ 午後8時40分～10時

【場所】 芙蓉閣  
大崎市古川駅前大通6丁目2-8 TEL 0229-23-0550

【講師】 社団法人倫理研究所 法人スーパーバイザー 長橋 護様  
テーマ「創生の経営道」  
＜事業体験報告者＞ 長野県倫理法人会 相談役 安江高治様  
テーマ「夫婦と親子の倫理」

【会費】 ＜講演会＞ 2,000円/お一人様  
＜懇親会＞ 3,000円/お一人様